

御仏前？御布施？

あつという間に一月を終えました。まさに「一月行く月」ですね。

さて、今月は時々受ける質問にお答えしたいと思います。

① 仏事の際の表書きは「御仏前」、「御布施」どちらを書くのでしょうか？

という質問にお答えします。いろんなパターンがあると思います。

- ◎ お通夜の場合
 - 《喪主・施主から寺院へ》
 - ▽ 御布施 御法札
 - 《参列者から喪主へ》
 - ▽ 御仏前
- ◎ 葬儀の場合
 - 《喪主・施主から寺院へ》
 - ▽ 御布施 御法札
 - 《参列者から喪主へ》
 - ▽ 御仏前

▽ 御香典

◎ 還骨・納骨の場合
 《施主から寺院へ》
 ▽ 御布施 御法札

◎ 礼参りの場合
 《施主から寺院へ》
 ▽ 御布施 御法札
 《参詣者から寺院へ》
 ▽ 御仏前

◎ 七日参りの場合
 《施主から寺院へ》
 ▽ 御布施 御法札
 《参詣者から寺院へ》
 ▽ 御仏前

◎ 年回法要の場合
 《施主から寺院へ》
 ▽ 御布施 御法札
 《参詣者から寺院へ》
 ▽ 御仏前
 ※ なお、年回法要が二つ以上あり、一緒

につとめる（併修といます）際は、御布施は別々にされた方がいいでしょう。

◎ 彼岸会法要の場合
 《参詣者から寺院へ》
 ▽ 御仏前

◎ 当山報恩講（御正忌）の場合
 《参詣者から寺院へ》
 ▽ 御初穂と御法札
 （御初穂は当山へ、御法札はご講師への謝礼となります。）

御初穂という表書きは昔から続く金光寺独特の風習です）

◎ 使用する水引
 ▽ 黒白・銀
 葬儀・四十九日・初盆・年回法要・彼岸会法要
 ▽ 黄白
 年回法要
 ▽ 赤白
 初産式・入仏法要・建碑式・報恩講等

② 年回法要は祥月命日より前につとめなければいけないのでしょうか
 という質問にお答えします。

年回の法事は、祥月命日（同月同日）におつとめるのが本来ですが、それぞれの家庭の事情により休日につとめることが増えています。

法事の期日について「命日より早めるのはいいが、過ぎてはいけない」と耳にします。期日を遅らせていけないのは、「昔からそう言われている。或いは粗略になる、ばちがあたる」など、そういう思いを持たれるのかもしれない。

より多くの人がご縁に合う機会と考えるなら命日を過ぎてもかまいません。
 なお、法事の期日は早めにお寺に相談し、その後、来ていただく方に連絡します。
 お寺への相談は法事が近づいてより、少しでも早くしてください。
 受付順で日程を決めます。

法語の世界

《原文》

仏法を好かざるがゆゑに嗜み候はずと、空善申され候ば蓮如上人仰せられ候。それは、好まぬは嫌ふにてはなきかと仰せられ候。

（『蓮如上人御一代記聞書 二百六十九』）

《現代語訳》

「人々は仏法を好まないから、仏法に親しむように心がけないのですと、空善が申しあげたところ、蓮如上人は「好まないというのは、それはきらわていることではないのか」と仰せになりました。」

宮殿修復のお知らせ

蓮如上人宮殿、この永4年（1991年）から、昨（2021）年まで、お預けをしております。ご迷惑をおかけしますが、ご迷惑をおかけします。



▲ 宮殿がない阿弥陀さま

金光寺春季彼岸会法要のお知らせ

ととところき 三月二十一日（月） 午前十時〜
 金光寺本堂
 正信念仏偈（草譜）・六首引き
 未定
 経本・念珠・式章（門徒・仏婦会員）をご持参ください。
 法要終了後、仏教婦人会総会を開催します。
 仏教婦人会総会終了後、本来ならご一緒に（とき）をお召し上がりいただきますが、新型コロナウイルスの感染の勢いが衰え、お配りし、ご自宅でお召し上がりいただきます。
 と存じます。